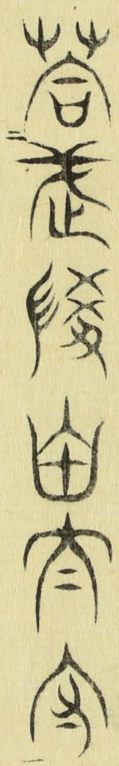
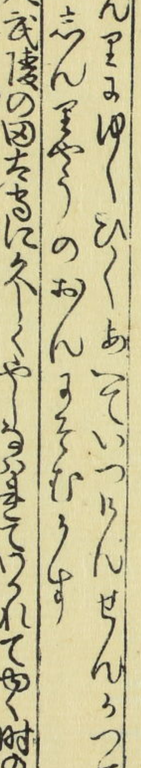
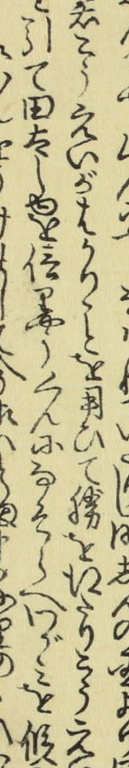
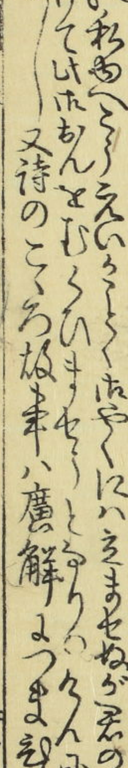
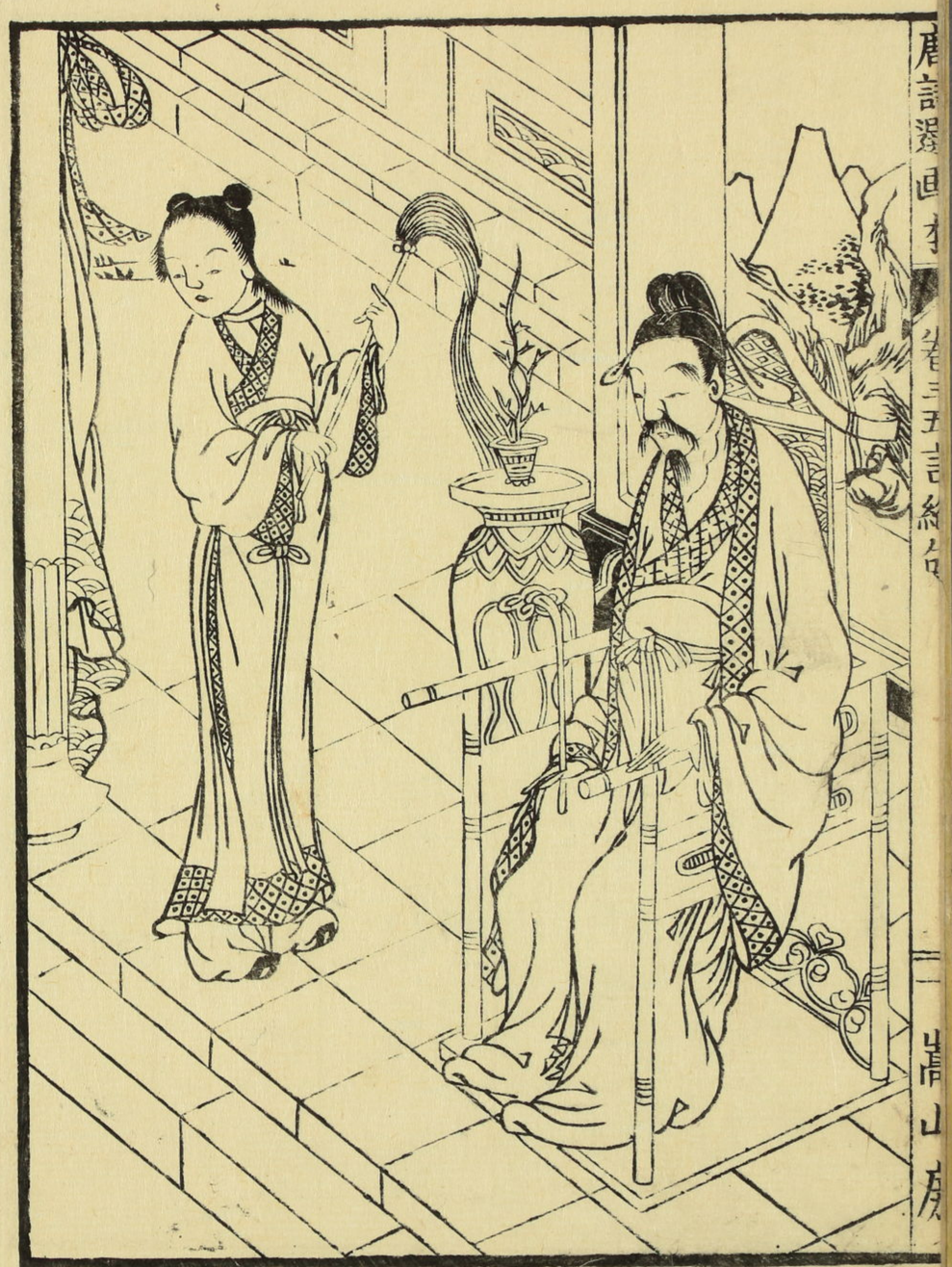
詩經集傳 未 [illegible]











望城坊　翟迪

弦唐古城上時登古城上古嘯
処時昔人自来住

ろをこきめぐるのもとをよむすんてこきめぐるのうへ
ちゝせきこゝあゝきこんおのつゝらんとすのやうこきめ

志ゝのいかりまんさ城の
もとをよむそゝひて
すあハこきゝ志ろの
うへ〻うゆるさて〻
志ろもむゝハ
うゝてハゆるすハ
めつゝこよゝ〻ハ
こかあるてあろふ
ういすハこかめす

人うおのつゝ〻
ゆきゝすると
よのせいすい
の角んを
かんせう
城ハたう
ひくの
地

鹿柴（ろくさい）

おうせきんさんをこるすがりちらくこ〳〵の
くとなる高やう寺んのうをきくすくく
くんうのあしとあり

日夕見（ニ）寒山使為（シ）
獨往客
不（レ）知（ニ）
松林
事

但有（ニ）麋鹿（ビロク）跡（ニ）

鹿柴はまのろ〳〵さひ〳〵同
結ハあけくれさひしさ
山斗をえてすなわち
ひ〳〵りたひの月と
なりうきよのう
をのれてつれハ
まろのそやしか
そふしこそやしかう
ちしかう そそふもも ねり
ハすく〳〵まろのそやつこのこをるのこん

ふくしう　杜甫

春國犂戎馬

園子
昔
神女
少
戰場
白

江碧鳥逾白
山青花欲然

雪白

長干行

崔顥

君家住何処　妾住在横塘
停船暫問渡　頗似故郎居

詠史

高適

尚有綈袍

贈應憐范叔寒不知

天下士猶作布衣看

范雎ていかうのおとりものありちん
ちゆうしゅうの人なをあそれむるべしてんかのしゆ
しゆをおしみすなをいのうんをとりすす

史記のちんちゆうくに仕とよばれてつくれる話ちうちんーゆくきの者の須賈ふつうくしとこれすうりうせいの王に仕まるにまさりいはりちんーゆくぐんぜつとちんびて今十りと
ゆうすうがぎの王のこうじとうげうにんとうくうびくりて大らうぎせのふりこりしりはぎせい
いうりてちんーゆくをうちとろすちんーゆくそうぎふしてちんとのうれ張ろくと名と
うてちんの王に好うればちんゆくよりうびて大らうくしとちゆうふうてすうりう秦役ふきさり時
ちんゆくつぎ須賈にあてたまてあいうればすうがあつ来こてぬのこ二つあうくうりまろちん
しゆくあのいして大らう張ろくの門ぜんゆすうりうせいきいしりゆうふ入ていぞすすうりう門だんふ
とくいいの人ぞうろくしとふすうりう大にかどろきかくごきはめてしざいを孫ゲふちんーゆく
ゲ曰ゆんゆくがつこうもうれしゆうるのようこをうすきざるなざーにめてく今はさすくるこうて
もきーにてうーうりぬのこーつゆてあゆふきをうとうすりうりうりう須のこはセめてぬのこ
とうりーはのうれしゆうれちゆうぬりのるうれ人とうろうきりものとうーはあこうら
ゆりうりうくしくきりのうりうりとぞ○故事はぬ廣うはいよゆり

田家昏望

幽門何所見昏望滿平蕪可歎奥知己高陽一酒徒

あ〜おもしろうぬる香むら〜鄙食をもたいこうよめみくとんてこさるしふさうさきれぎりきうしたれもヲルをまつてうなるルハさけてものくてムさうさ合ハ

九月九日憶山東兄弟

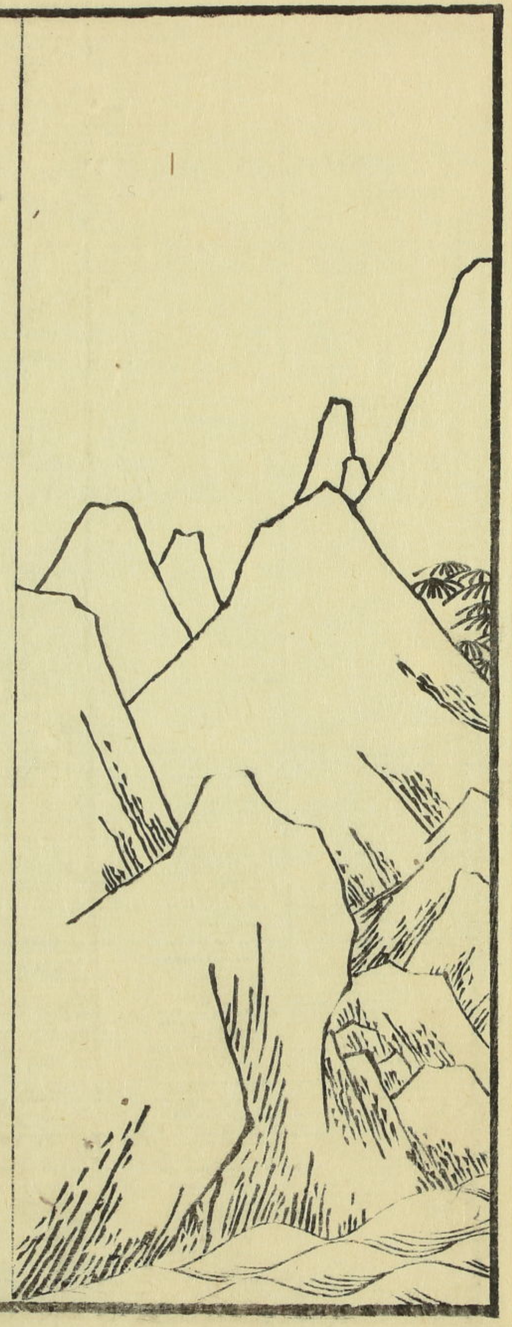
王維

獨在異鄕爲異客
每逢佳節倍思親
遠知兄弟登高處
遍插茱萸少一人

秋菊有佳色

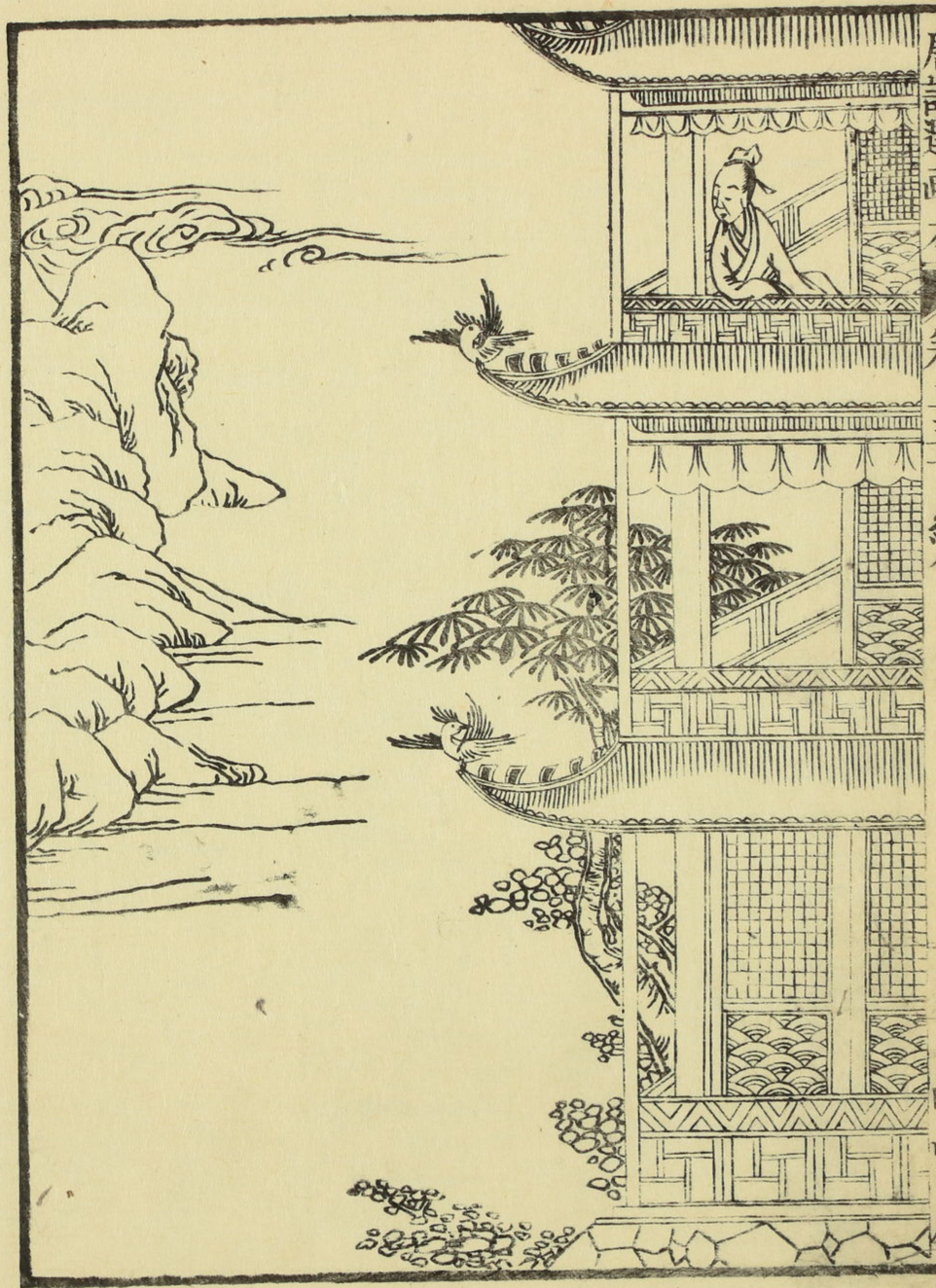
陶潛

秋菊有佳色
裛露掇其英
汎此忘憂物
遠我遺世情
一飲雖獨盡
杯盤終已傾
山日夕佳
飛鳥相與還
此中有眞意
欲辨已忘言



渭多東流李河时彩產吟渡流女
り沙宮向方圖涼

いすのひろしまなるふるさとうきたうきたうよりてこんたのんてア
ぎうこうのなんさをそくてよせてとろんよむうてなうこん
ふいそとよりハひろしまなるふるいろころきやうやうきたうよなるふれりてあろふそのよ
たのんてワのこのなこうさときやくなりさんとなり○まこ廣解よくハ



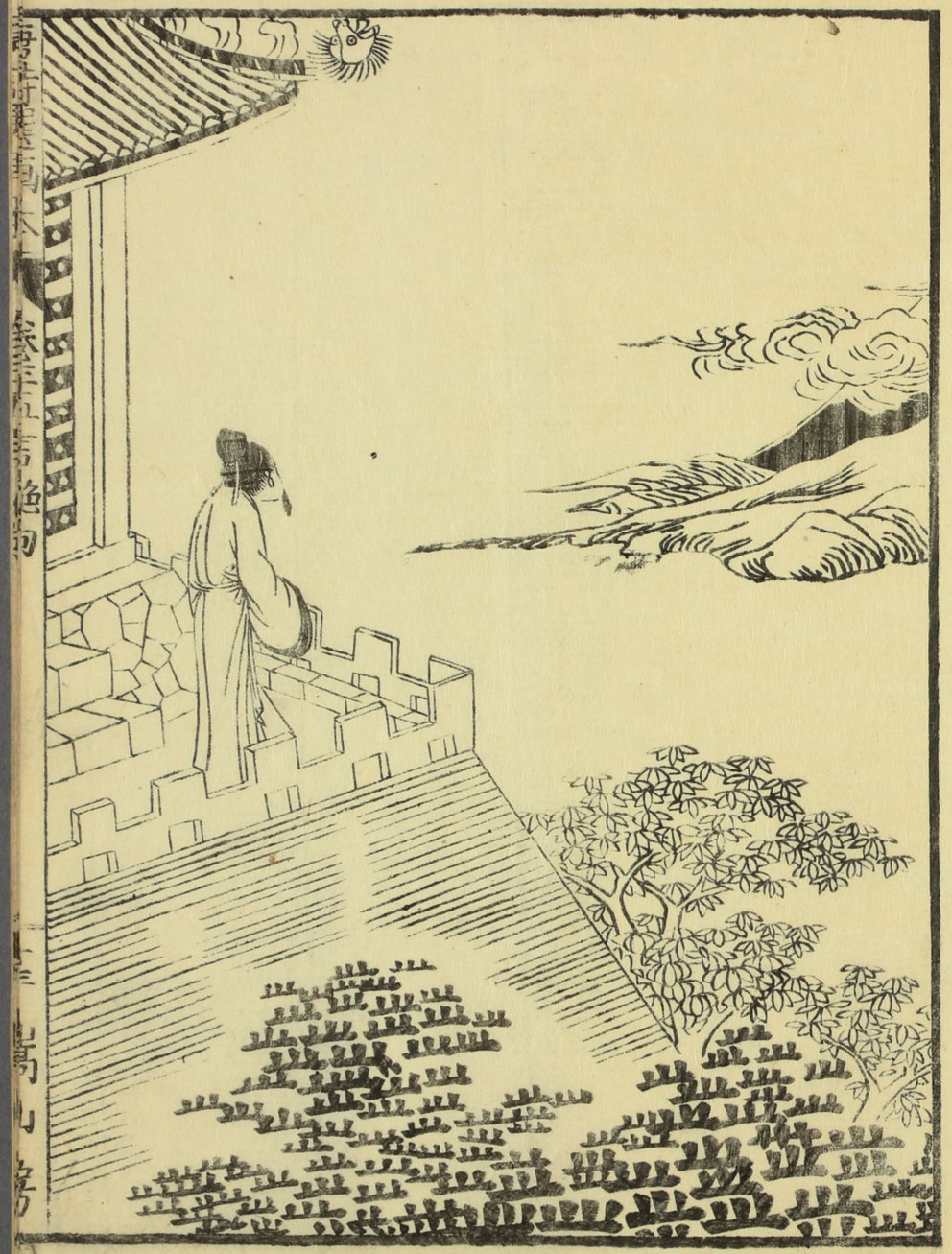
登鸛鵲樓　王之渙

白日依山盡黄河入海流欲窮千
里目更上一層樓

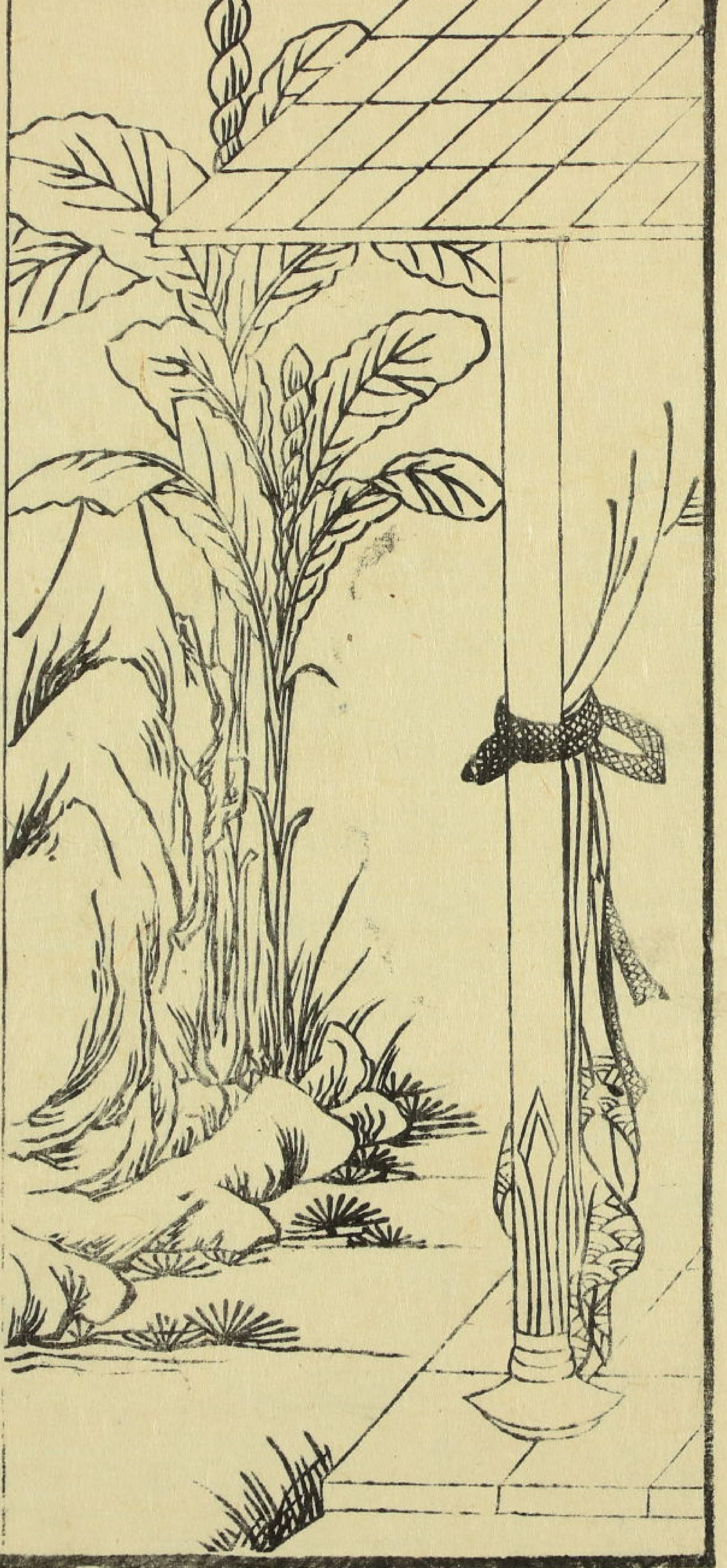
終南望餘雪　祖詠

終南陰嶺秀積雪浮雲端林表明霽色城中增暮寒

きゝなんさんハちやうあんゝやさうよのそとあふくさんれいふりてうすくうんのたんぱくまんひやくせいちゆうあきらかなるゆふべのいろをまさすてゝあきりとハうりつゝたるゆきハ山のこるさゝゆくもものえゝまうをもやゝのさまをあらはしてあきらかなるゆふべのいろをまさすちうあのなかハゆきてさえかんきうまさんとくゝ汚ふんこ付けてみせの汚之



罷相作　李適之



避賢初罷相　樂聖且銜杯　為問門前客　今朝幾箇來

けんをさけてはじめてしやうをやめせいをたのしんで
かつはいをふくむためにとふもんぜんのかくこんてう
いくばくかきたる

おはりやうやくやめてのちのりんしやかつきさくへのつきあひていくばくのおほきさやくきさ華あたえこれをもつてせ
いんのうちをたのしくみえそものんでたのしみあるてうやくしやうりふいきやくしやうきさもろくさこんや
きの中八たちいきさるてへきみひをりしをやもりはしゆうとこまいえんをまつりのかせいそぎしゆとかいせとせいのそびまでは

加藤拿助

唐詩選畫本三十五卷

岡田富治郎

越後村

岡田富治郎